

# エデュコ **Educo**

地球時代の教育情報誌

No.37  
2015年 春

## 飯島 奈美さん

フードスタイリスト

巻頭インタビュー p.2



知っておきたい教育 NOW p.4

学校教育におけるESD

知ろう！考えよう！行動しよう！坂浜  
～ESDを取り入れた授業開発～

きょういく見聞録 p.8

いたわり はげます 平和な学校  
～被爆後70年に向けて～

地球となかよしトピックス p.10

「足立のおいしい給食」

一人に感謝し、心を豊かにする給食  
東京都足立区立本木小学校

インフォメーション 北から南から p.12

地球となかよしゼミナール p.14

東日本大震災後の吹奏楽活動について  
「みやぎスーパーバンド」の存在  
宮城県吹奏楽連盟

コラム p.15

PISAやTALIS調査から見える  
日本の教育の現状と課題

ほっとな出会い p.16

株式会社オーエックスエンジニアリング  
営業部主任

安 大輔さん

# 料理って、短い時間で作れて、 喜んでもらえる。人を喜ばせることを、 短い時間でいつでもできる。

いい じま な み  
フードスタイリスト **飯島 奈美**さん



## PROFILE

東京都生まれ。「かもめ食堂」「そして父になる」など数多くの映画のフードスタイリングを手がける。テレビCMを中心に、広告、雑誌など食に関するさまざまな分野で幅広く活躍。「LIFE」「シネマ食堂」「深夜食堂の料理帖」等、著書多数

映画やCMなど、さまざまな媒体で活躍なさっています。

子どもの頃から料理を手伝ったり教えてもらったりするのが好きでした。母が調理師なんです。家族でよく餃子や唐揚げを作りました。

栄養士の学校に入った頃に『オレシジページ』などの家庭料理雑誌が出版されて、「料理の作り方を紹介する素敵なページ作り」に、自分も携わりたいなと思うようになり、調理実習で大学の調理場に行き、数週間、大量の食事を作り続けたあと、「やりたいことはこれしかない」と気持ちが決まり、その日から、どこに行けばほしい仕事と巡り

会えるのかを模索する日々が始まりました。料理関連の編集もしている編集プロダクションの募集に応募したら、採用担当の方が「編集じゃなくて、料理を作りたいんだよね？フードスタイリストを紹介してあげるよ」と、初対面で言ってくれたんです。それがなかったら、今の自分はないと思います。その翌日に面接を受け、お手伝いさせてもらうことになりました。スーパードライの料理や、CMや映画の仕事など、色々経験させてもらいました。

「著書などの影響もあり「フードスタイリング」という仕事が広く知ら

れるようになりました。

フードスタイリングは、映画やCMの撮影時に、料理作成やテーブルコーディネートなどを行う仕事です。たとえば食品会社のCM用でしたら、設定した季節に合わせて料理を提案し、実際に料理を作ることもあります。

NHKのドラマ「ごちそうさん」の仕事では、明治・大正・昭和と3つの時代設定があり、食事の種類がとても多かったため、食器選択は美術担当さんにお願いました。時代設定に合わせて美術担当さんが作った、五徳やコンロなどを見ることで、勉強になりました。時々、海外での日本食レストラン用メニュー提案や、海外映画会社からフードコーディネートの依頼などもありました。機会があれば海外映画もやってみたいですね。

「ご担当作品中の料理には、各登場人物の性格がとても良く表れています。」

映画では、登場人物になりきって作り方を考えます。性格によって食器の選び方も変わるので、日本の台詞を読み込み、たとえば「この人は



「おらかな性格だな」と思ったら、食材の切り方もきつちりしすぎないようにして、ナチュラルな感じの器を選びます。映画「南極料理人」では、主人公の、料理が苦手な奥さんが作る油っぽい唐揚げのシーンがありました。ごま油やねぎや醤油でタレを作り、唐揚げのギトギト感が出るように工夫しました。そうすれば、ただハケで唐揚げに油を塗った時よりも、抵抗感なく食べられますから。あまりベタベタにしてしまうと、映画を見ている人にとって「食べ物」ではなくってしまいます。だから映画スタッフさんたちにも「見た目と違い、実はおいしいんですよ」とわかるようにしています。

また、なるべく撮影用食材が無駄にならないよう、現場で食べたり、持ち帰ったりしてもらえるように、袋なども用意しています。撮影が長いので、夕食時間が遅くなることもあるので、撮影の合間に少しずつ食べ物を出すと喜ばれますし、スタッフさんが、自分が作っているCMなどの商品の味もわかりますから。お腹がすいたらイライラするし、現場の士気にも影響するので、できることはきちんとしていきたいと思っています。

### 「自分が飽きずにできる仕事は何か」を見つけることは、キャリア教育の基本でもあります。

料理って、短い時間で作れて、喜んでもらえる。人を喜ばせることを、短い時間でいつでもできる。

私はたまたま、本当に好きな「食」に関わる仕事ができ、すごく幸せです。だから一度も転職しようと考えたことがないです。

学生の頃から「自分は飽きやすいタイプだから、好きなことを仕事にしないと、転職を繰り返すな」と思っていました。親には「『料理を仕事にしたい』ということは決まっています、今はバイトをしながら料理の仕事を探しているの、しばらく見守って欲しい」と伝えました。そし

て運よく仕事が見つかって、それからはずっと同じ仕事をしています。「飽きずにできて、よかったな」と思います。

「自分はこれをやろう」と思ったから、3年は続けてみるといいです。私が先生について仕事をしていた頃、1年ほど働いて、「自分には合っていない」と辞める人が多かったんです。1年目って、楽しい時期でもあるけれど、まだ全体が良く見えていなくて、慣れないことをするつらい時期でもあります。その時に「この仕事は自分に合っていない」と決めてしまうのはもったいないです。自分が好きで始めた仕事なのに。辞めるのなら、始めてから1ヶ月くらいで「自分には、絶対これは無理だ」と辞めるか、それとも最低3年は続けるか。そうしたら、別の仕事に移っても、3年間働いたことが経験の一つになります。

言われたことをするのは当たり前なことですけど、仕事の流れをよく見て、次に何が必要か、想像力を働かせて仕事をする人は、本当に成長が早いです。家でお母さんが料理を作るのを手伝う時も、「これくらい煮えたら、次に砂糖と醤油を入れ

るな」と予想して、先に砂糖と醤油を出しておいたり、相手が望んでいることを想像して行動すると、ちよつと世界が変わるような気がします。ちよつとしたことですけれど、気がついて先に動くことで、評価が変わることもあると思います。

自分も気働きができるようになりたいと思って行動してきました。だからこそ他の人を見ていて「こうしたらもっといいのに」と思うこともあります。何回かはアドバイスをしますが、その後どうしたいかは、その人次第。でも、相手の望みを想像して自分から動くことは、仕事だけではなく、家庭や他の場面でも役立つんです。最初は少し大変かもしれないけれど、日頃から心がけて、慣れてくると面白いですよ。「今、これを取ると喜ばれるな」とか。「ここまで来たら、取って渡さなくてもいいか」と思わずに、ぎりぎりタツチの差でもいいので、パツと取って「どうぞ」と必要な物を渡す。そうすると「すごい」「頼もしいな」と相手の評価が変わります。

# 学校教育におけるESD



文部科学省視学官  
田村 学

## はじめに

「ESD」

読者のみなさんは何のことかご存じだろうか。

「アルファベット3文字って、いろいろあるからねえ」

「AEDって…。それとは違うよねえ」  
こんな声が聞こえてきそうである。

「最近、ESDって言葉を聞くけど何のことなの？」

「学校の授業とどんな関係があるの？」

そんな疑問にお応えするのが、今回からの「知っておきたい教育NOW」の目的となる。4月号と9月号の2回にわたってESDについて紹介していく。4月号では、ESDの概要を記し、9月号で

は、実際の教育活動の様子などを伝えていこうと考えている。

## ESDってなに？

「Sustainable Development : SD」とは、「人間を支える生態系が有する能力の範囲内で営みながら、人間の生活の質を向上させること」などと定義され、そのための教育が「Education for Sustainable Development : ESD」と考えられている。「持続発展教育」と記したり「持続可能な発展のための教育」などと訳したりしている。つまり、ESDとは、永続的に発展し続けることができるような持続可能な社会を形成していく人材を育成していこうとする教育なのである。

このESDは、2002年のヨハネ

スブルグサミットにおいて、日本が、2005～2014年までの10年間で「国連持続可能な開発のための教育の10年」（以下、「国連ESDの10年」と提唱したことからは始まっている。昨年、名古屋市と岡山市で開催された「ESDに関するユネスコ世界会議」は、「国連ESDの10年」の最終年にあたり、日本政府とユネスコによりESDの一層の推進に向けて開催したものである。

## なぜESDなの？

現代の社会は、大量生産と大量消費、大量廃棄による経済成長に支えられている。また、産業の発展と人口増加に伴い、さまざまな問題も発生している。例えば、気候変動などの環境問題、資源の枯渇などのエネルギー問題、貧困の拡大などの南北問題、飢餓や食糧不足などの食糧問題などであり、それらの問題は広がりを見せる一方、収束に向かう気配はなかなか見られない。私たちの子や孫などの将来の世代においても、現在のような恵みある豊かな暮らしを行えるかどうかは、甚だ心配な状況が生まれている。

将来世代を含む全ての人々に、質の高い生活をもたらすことができるような

発展を目指していかなければならない。そのためにも、持続可能な社会の構築に向けて行動できる人材を育成すること。希望のもてる未来社会を築いていく人材を育成していくこと。自分の考えで、地球的視野で行動できる人材を育成していくこと。こうした、地球上のさまざまな問題を自分事として深く理解し、日常の暮らしにおいて、自分自身の行動を変革していくことのできる人材を育成することが、今、求められている。

その鍵を握っているのがESDである。極めて、私たちの暮らしに密接なものであるとともに、だれもが意識していかなければならない重要なものなのである。

日本国内においては、さまざまな主体がESDに取り組んできた。小学校、中学校、高等学校、大学などの学校における教育はもちろん、社会教育施設、自治体、NPOや企業などの地域社会における教育でもESDが展開されてきている。とりわけ学校においては、ユネスコスクールを推進の拠点として位置付け、積極的な取組を行ってきた。

## どのように学校教育とつながるの？

平成26年6月に閣議決定した第二期教育振興基本計画には、第一期に引き続きESDの推進を以下のように記している。

「現代的、社会的な課題に対して地球的な視野で考え、自らの問題として捉え、身近なところから取り組み、持続可能な社会づくりの担い手となるよう一人一人を育成する教育（持続可能な開発のための教育・ESD）を推進する。」

また、平成20年1月の中央教育審議会答申や平成20年3月に公示された小学校と中学校の学習指導要領においては、各所で持続可能な社会の構築に向けた考えが示されている。

具体的には、中学校の社会や理科、高等学校の地理歴史、公民、理科、保健体育、家庭、農業、工業、水産、理数にESDにつながる記述が盛り込まれている。

特に、小学校、中学校、高等学校に位置付けられている総合的な学習の時間は、現代社会の横断的な課題を探究的に学習する時間であり、例えば、国際理解、情報、環境、福祉・健康などの現代社会の諸課題を扱う。これらの課題は、いず

れも持続可能な社会の実現に関わる課題であり、全ての人が、自分事としてよりよい解決に向けて行動することが期待されている課題である。さらには、さまざまな課題の解決を通して、資質や能力及び態度を育成し、自己の生き方を考えることとしており、極めてESDの考え方と共通点が多い。

もちろん、ESDはここに記した教科など以外にも推進すべきであり、教育課程全体で取り組むことが期待されている。

次号では、学校教育におけるESDの具体的な実践事例などを紹介していきたいと考えている。

### ●引用・参考文献

- ・「国連持続可能な開発のための教育の10年（2005～2014年）ジャパンレポート」（平成26年10月、国連持続可能な開発のための10年「関係官庁連絡会議」）
- ・「学校における持続可能な開発のための教育（ESD）に関する研究「中間報告書」」（平成23年3月、国立教育政策研究所）
- ・「学校における持続可能な発展のための教育（ESD）に関する研究「最終報告書」」（平成24年3月、国立教育政策研究所）
- ・「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について（答申）」（平成20年1月、中央教育審議会）

# 知ろう！考えよう！ 行動しよう！坂浜 ～ESDを取り入れた授業開発～



東京都稲城市立稲城第二小学校  
校長 植松 辰夫

本校では、近年注目されている4つの視点（ESD・OECD・ユネスコ・指導要領）から、未来を創るために必要とされている能力や態度、考え方は何なのかを探ってみた。それぞれの求めている考えを包括し、児童に求めたい姿として、具体的に最もわかりやすく表現されていたのがESDの考え方があった。ESDとは、持続可能な社会づくりの担い手となるよう一人一人を育成する教育である。ESDには、6つの概念と7つの重視する能力・態度が示されている。「6つの概念」とは、「多様性・相互性・有限性・公平性・連携性・責任性」であり、持続可能な社会づくりを目指すために育てていきたい考え方・価値観である。「7つの重視する能力・態度」とは、「批判的に考える力、未来を予測して計画を立てる力、コミュニケーションを行う力、多面的・総合的に考える力」の4つの能力と、「他者と協力する態度、つなぐを尊重する態度、進んで参加する態度」

の3つの態度のことである。こうしたESDで求められる概念や、能力や態度を育成していくためには「どのような内容を」「どのような学ばせかたで」、具体的な授業の中で展開させていけばよいかを研究していくこととした。

本校の学区である東京都稲城市坂浜地区は、豊かな土壌と水源をもち、古くから農業が盛んな土地柄であり、本校の近くには、昔ながらの美しい里山の姿がまだここかしこに、大切に残されている。自然に恵まれた環境と地域の方々の多大なる協力を得て、長年、さまざまな学習活動が展開されてきた。しかし近年、稲城市の中でも急速にさまざまな開発が進んでおり、ここ坂浜地区にも開発のうねりが迫ってきている。それ故に、現在残されている美しい里山の姿と住んでいる人々のつながりは貴重であると考え、この価値をぜひとも児童に伝え、守ってほしい、また、新しい形でこの地域の価値を作り出しな

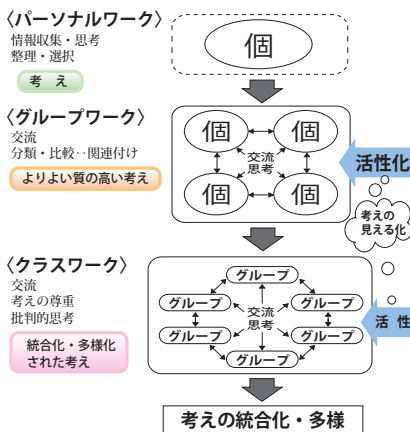
がら、発展させてほしいと願っている。

こうした「坂浜地域」をステージに、本物の体験をもとにESDの視点に立ったつながりを意識した探究学習を展開させていけば、つながりを大切にした体験を通して感受性を高め、自ら課題を見つけ、探究しようとする児童が育っていくだろう。さらに、こうした探究学習を重ねていけば「本物の学び」「生涯にわたる学び」へとつながり、児童が社会を担う中心となる2050年には、さまざまな問題に関心・知識をもち、問題解決のための技能を身に付け、持続可能な社会の構築を目指して主体的に考え行動する大人へと成長し、持続可能な社会を担っていける人材となるだろうと考え、児童の地域である「坂浜」を題材にした探究活動「知ろう／考えよう／行動しよう／坂浜」～ESDを取り入れた授業開発～として取り組んできた。

## 「学びを支える「学びの術」と「思考ツール」

児童が主体的に対象と関わり、経験を重ね、社会的脈絡の中で、自らの得た情報を吟味し、解釈を加え、対象に対する捉え方を変化させていく状態を本校では「学び」と考える。

本校では、「学び」や「探究学習」を支える「言葉の力」の中から、児童に習得させた論理的に考えるための言語活動の具体的な手立てを「学びの術」として位置付け、教職員はさまざまな教科や学習の時間の中で取り



入れてきている。

また、協働的な学びを積極的に問題解決に取り入れている。協働的な学びとは、他者と協力して行う学習活動のことである。協働的な学びを成立させるためには、児童一人一人が個としての自分の考えをもっていることが重要である考えをしっかりとたうえで、グループワークなどで、考えを伝え合い、多様な視点に気付कि、また、自分の考えを再構築させる。その後、必要に応じて、クラスワークを行うことにより、さらに多様な考えを出し合い、統合化された多面的なものの方、よりよい手立てを生み出すことができていく。この時、コミュニケーションを成立しやすく、また、活性化しやすくするのが、思考ツールである。思考ツールの活用によって、それぞれの考えを「見える化」して、話し合いを活性化させることが期待できる。

児童の学習には「知る」「考える」「行動する」ことが段階的に何度のもスパイラルの形で出てくる。それぞれの段階での「知る」「考える」「行動する」姿を具体的な設定し、

「行動する」姿を具体的な設定し、

このように地域を活かした学びを展開させることは、リアリティのある課題を見つけることとなり、また、地域の方の協力を得ることにもつながるなど、複合的な実りがあった。よい実践を重ねることは、地域とのつながりを豊かにし、地域を改めて振り返る機会と

高めていくための手立てをとることにした。

このようにまとめることで、各学年での具体的な児童の姿が明確になり、教師の指導の系統性が高まった。また、それぞれの児童が、自分の経験を生かして、教師が導きたい「知る」「考える」「行動する」姿へと高まってくと考えた。

まとめ

日常の中でESDの考え方を、学校全体でいかに具現化していくか、国内外の他校他地域との交流活動の推進し、新たな価値観を児童の中に育てていくこと、「学びの術」を明確に定義し、「論理的な思考」との関係性を明らかにし、さらに検証していくことなどが今後の課題として残る。

	低学年	中学年	高学年
知る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・坂浜に関心に向け、地域の人や自然について、自分から知ろうとする。</li> </ul> <p>手立て  <ul style="list-style-type: none"> <li>・○○探検マップ化</li> <li>・ウェビング</li> <li>・発見カード</li> </ul> </p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に目的をもって体験し、課題を見つめる。</li> <li>・地域との関わりを見つめる。</li> </ul> <p>手立て  <ul style="list-style-type: none"> <li>・作業の内容や思いを伝える。</li> <li>・ゲストティーチャー</li> <li>・インタビュープランの作成</li> </ul> </p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域について見直し、価値や課題を再発見する。</li> <li>・地域と自分の学校や生活が結び付いていることを知る。</li> <li>・自分の生活と地域の未来のつながりについて知る。</li> </ul> <p>手立て  <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲストティーチャー</li> <li>・都市計画図</li> <li>・調査</li> </ul> </p>
考える	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分と友達のを比べて考えたり、これからどうしたいか考えたり、新しい意見を考えたりする。</li> </ul> <p>手立て  <ul style="list-style-type: none"> <li>・○○あそび</li> <li>・発見カード</li> <li>・マップ</li> <li>・教師の発問</li> </ul> </p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査して考えたことを分類して、項目を考える。</li> <li>・目的を考えたり、自分の考えの根拠を考えたりする。</li> <li>・未来を考え、その未来に向けて今できることを考える。</li> </ul> <p>手立て  <ul style="list-style-type: none"> <li>・KJ法</li> <li>・ふせんによる話し合い</li> <li>・インタビューシート</li> <li>・バックキャストの考え方</li> </ul> </p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調べて考えたことを分類したものを、比較する。</li> <li>・調査結果などを根拠にして、自分の考えを明確にする。</li> <li>・現実的な未来に向けて自分たちにできることを考える。</li> </ul> <p>手立て  <ul style="list-style-type: none"> <li>・KJ法</li> <li>・タイプライターランキング</li> <li>・個人グループ全体話し合い</li> </ul> </p>
行動する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学んだことを学校や地域の人に伝えたり、お礼の手紙を書いたりする。</li> <li>・調べたことをまとめる。</li> <li>・他の学年や地域の人に対して優しく気持ちで接する。</li> </ul> <p>手立て  <ul style="list-style-type: none"> <li>・手紙、文集</li> <li>・劇、○○作り、○○の会</li> <li>・コーチャル、掲示板</li> <li>・マップ</li> </ul> </p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・考えたことを根拠をもって説明する。</li> <li>・学習のまとめをポスターやリフレットで効果的に伝える。</li> <li>・今できることを考え、参加したり、手伝ったりする。</li> </ul> <p>手立て  <ul style="list-style-type: none"> <li>・ポスター、看板</li> <li>・新聞、パンフレット</li> <li>・歌、キャラクター作り</li> <li>・アルパム、歌</li> <li>・行事や祭に参加。</li> </ul> </p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちの考えた根拠を柱として伝える。</li> <li>・今できることを考え、実際に行動につなぐ。</li> <li>・地域とのつながりを大切にし、継続してできることを行動につなぐ。</li> </ul> <p>手立て  <ul style="list-style-type: none"> <li>・根拠を柱としたプロジェクトを立ち上げる。</li> <li>・市民アピール</li> <li>・アルバム、歌</li> <li>・コマチャル作り</li> </ul> </p>

地域を学習に取り上げることにより、児童とともに教員も地域とのつながりが増し、地域を理解し地域に愛着をもち、地域の価値を見つめることができた。これにより、地域の未来を主体的に考えるようになり、地域を守り発展させていこうとする児童が育ってきている。

論理的に考えたり話し合ったりするため、さまざまな手だて（学びの術）を試みることで、さまざまな考えを出し合ったり、互いの考えを比較・検討しあったり、考えを深めあったりする姿が見られた。

「学びの術」など、論理的に考え話し合うための土台作りは、国語・算数・社会・理科などでも養っており、また反対に総合的な学習の時間や生活科の学習で体験した複雑な条件の中、それらをまとめ、思考を深める体験が、さまざまな教科の中でも生かされて応用が可能であることがわかった。さまざまな「学びの術・思考ツール」を経験することで、児童の発想や思考が柔軟になっていくことも実感できた。



平和の灯コンサート

和祈念式、原爆殉難者慰霊式・各学年の学習、平和発信の会)で行われ、被爆された方やご遺族だけでなく、他県や海外からの参加者も多く、慰霊と平和への祈りにつまれる式となる。また前日8日の夜には6年生が長崎市主催の「平和の灯コンサート」に参加し、平和の祈りと共に「子らのみ魂よ」を合唱している。

### 平和学習——総合的な学習の時間の改善

被爆の実相や平和の尊さを学び、子どもたちが平和を継承していくためにも、平和学習の充実は欠かすことができない。そこで、今年度から総合的な学習の時間や道徳の時間のあり方を見直し、研究を進めている。本校では各学年でテーマを決めて平和学習を行っている。研究目標でもある平和的实践力を育てるためにも、全学年、テーマと発達段階に応じて計画的に長崎市の語り部の方や本校被爆校舎平和発信協議会の方、地域の方を授業に招き、講話や交流をしていただき、対話することで、身近な生きた学びとなっている。

また、今年度平和学習の中心でもある「総合的な学習の時間」の改善を進め、子どもたちが自ら課題を持ち、意欲的・探求的に学習に取り組み、発信を経て、自己の生き方を考えることのできるテーマや学習過程、指導方法の在り方を研究、5年生のイタリアの小学生との交流や4年生の「やさしさ発見!! 城山探検隊」などの取り組みを生み出すことができた。さらに、一年を通じて学んできた各学年の学習成果を保護者やお世話になった地域の皆さんへ発信する平和学習発表会を実施している。

6年生になると、平和学習の集大成として「ピースナビ」活動という交流活動を行う。修学旅行で長崎を訪れた児童・生徒に本校の被爆・平和遺構についてナビゲートする活動で、被爆の実態を伝え、平

和を発信することを目的とし、活動の中で、他校児童生徒との交流・対話を大切にしている。共に考え、話し合うことでよりよくわかり合い、よりよい考え方をを見つけることができ、共に平和な未来を目指す決意も生まれることを期待するからである。

### 道徳教育の充実

平和を尊ぶ心を育成する上で、道徳の時間を要とし、全教育活動を通じ指導する道徳教育の充実是不可欠である。本校の3つの取り組みを紹介したい。

1つ目は道徳教育と総合的な学習の時間との連携を図り、平和的实践力を育む児童の育成を目指すことである。今年度は平和遺構である「かよこ桜」を題材とした紙芝居を取り入れ、道徳の授業を行い、新たな教材開発にもつながった。2つ目は週1回の朝の「こころの時間」である。毎月のテーマに基づき計画的に指導し、自分を見つめ、他者との関係や生き方を考える貴重な時間となっている。3つ目は「学校大好き集会」である。学級の取り組みを紹介し、認め合うと共に全校でのレクリエーションを通して縦の繋がりを大切に活動として、有効であると考ええる。

また、育友会や育成協議会の活動として、ピースキャンドル作りと灯籠作りを行っている。ピースキャンドルとは、「ながさき平和の日」に平和公園に灯す平和のメッセージを書いたろうそくのことです。その制作を通して平和を希求する心情を深めることをねらいとしている。万灯流しも「ながさき平和の日」に行われる活動で、原爆でお亡くなりになった方々の霊を慰めると共に、恒久の平和を願い灯籠を流している。親子で灯籠を作り、家庭でも平和について語り合うきっかけとなっている。毎年一千個を超える灯が、被爆地のそばにある浦上川を厳かに照らしている。被爆後70年を迎え、体験講話をしていただいている方々もご高齢になっている。被爆体験の継承や未来に向かって平和な世界を創っていく担い手として、子どもたちを育てていくことが、学校教育に求められる課題である。被爆校舎の現存する、世界で唯一の学校として、被爆の実態を後世に伝えると共に世界に平和を発信し、交流しながら共に学び、考えることのできる平和教育の充実を目指し、ますます努力していきたい。☺



## いたわり はげます 平和な学校

～ 被爆後 70 年に向けて ～

昭和 20 年 8 月 9 日午前 11 時 2 分、長崎市松山町上空 500 m で原子爆弾が炸裂した。爆心地から 500 m の西方、高さ 20 m の丘の上にあった城山国民学校（現・城山小学校）は、摂氏 5000 度の熱線と秒速 250 m の爆風および放射線（1 km 以内は致死量）を受け、当時「九州一」と言われた鉄筋 3 階建て校舎は瞬時に破砕焼失し、緑豊かな美しい森もすべてなぎ倒された。同時に、家庭にあった児童 1400 余名、学校にあった先生 28 名、庁務員 3 名、三菱兵器製作所員・挺身隊員・学徒報国隊員計 105 名が悲惨極まりない爆死を遂げた。しかし生き残った地域住民の学校再建への思いは強く、昭和 23 年に開校を果たし、現校舎は今年で 35 年目を迎える。このような歴史をふまえ、本校は学校教育目標を「いたわり はげます 平和な学校」とし、平和教育に力を注いできた。被爆後 70 年の今年、長年の平和教育の蓄積を土台に、本校にしかできない未来を見つめた平和教育の構築を目指し、合い言葉「平和は城山から」に恥じない責務を果たしていきたいと、教職員一同決意を強くしている。

長崎県 長崎市立城山小学校 校長  
中尾 美津子



### 学校の沿革と平和教育

城山小学校は、平成 27 年 3 月 1 日現在、児童数 535 名、教職員数 31 名、21 学級（特別支援学級の知的 1・情緒 1 学級を含む）の中規模校である。校庭には、少年平和像、かよこ桜、平和の鐘、原爆殉難者之碑など平和に関する樹木や碑が多く、城山小平和ゾーンとして、年間約 500 校、3 万人を超える修学旅行者や一般見学者を迎えている。中でも 2013 年に国文化財登録となった「城山小平和祈念館（被爆校舎）」は、亡くなられた先生方の遺影をはじめ、被爆の実相を如実に示す展示物、当時の写真などがあり、来館者へ平和の大切さを無言で語っている。児童も、この平和ゾーンを中心に毎朝の清



イタリアの小学生との交流

掃活動を行い、慰霊の地を大切に守っている。

また、昭和 26 年、少年平和像の建立に合わせて始まった平和祈念式を毎月 9 日（祝祭日により前後することあり）に継続して実施している。この式では、原爆で亡くなられた方々の御冥福を祈るとともに、被爆の実相の継承、平和への発信を目指し、校長講話、被爆体験講話や各学年の平和への発信、拝礼、黙祷、献花などを行い、心の教育、命の教育の原点として実施している。2014 年 7 月の式では、イタリアのピアチェンツァ県の親子が猷鶴に来校されたのをきっかけに、5 年生が「総合的な学習の時間」に「平和の思いを世界へ」というテーマで現地の学校と平和について交流を深め、イタリアの新聞に大きく掲載された。平和祈念式は、今年 3 月で 764 回になる。8 月 9 日の平和祈念式は、3 部構成（平



城山小平和祈念館（被爆校舎）



▲児童が食物への関心を持つように、給食前にその日の献立に合わせた、食に関する3択のクイズを出題します。「さて、ツナは何からできているでしょう？」。

## 東京都足立区立本木小学校

### 「足立のおいしい給食」——人に感謝し、心を豊かにする給食

東京都足立区の小中学校では、「給食残菜ゼロ」「おいしい給食日本一」を目指す取り組みを行っています。「おいしいと感じるだけでなく、自然の恵みや、料理を作ってくれる人への感謝の気持ちを持ち、喫食時間がより楽しく、心豊かになれる給食」、「身体にとって大切な食べ物を知り、選ぶことができる給食」を目指す「おいしい給食」活動を行っている学校の一つ、本木小学校（児童数475名、平山仁美校長\*）の取り組みを紹介します。

#### 「区全体で取り組む」おいしい給食

足立区内にある小中学校での「おいしい給食」の取り組みは、平成20年から始まりました。以前からごみの堆肥化などにも取り組んでいた近藤やよい足立区長は、ある時、都の職員から「東京都で一番多い生ごみは学校給食の残菜です。『ごみを出さない』取り組みをしませんか」と提案されました。また同じ頃、区内の小中学校に通う児童の保護者から「区内で転校したら、給食がおいしくない。同じ区内なのに、なぜ給食の味に差があるのか」と問い合わせがあったことなどをきっかけに、「区内のどの学校でも、おいしく楽しい

給食を展開したい」「食べ物について学び、作ってくださった方たちに感謝しながら、おいしい給食を食べたい」と願い、区と区内の学校とが協力し合って、活動は展開していったのです。

#### 給食で食育を

本木小学校の給食室には大きな窓ガラスがあり、廊下から給食を作る様子を見ることが出来ます。平山仁美校長先生は、「できあがった給食だけでなく、作ってくださる方やいろいろな食材への関心をもつことも大事だと思います。豊かな時代だからこそ、それらを知って、大切に味わって欲しいですね」とおっしゃい

▶足立区「おいしい給食担当」ご担当者は「取り組みを始めた頃は、「食べさせるだけでなく好きなものだけ出せば」「給食を残さない取り組みをする必要があるのか」と栄養士さんから疑問が寄せられたこともありましたが、しかし取り組みの効果が見え始めると、納得していただけるようになりました。」とおっしゃいます。



▲各学校に栄養士さんがいて、献立は学校ごとに異なります。食品アレルギーによる事故を防ぐため、食品チェックは厳重に行います。また本木小学校ではアレルギーをもつ児童のいる教室には、万一の場合にすばやく対応できるよう、「アレルギー」の頭文字「A」マークのプレートを掲示しています。



▲「学校での食育は、担任の先生や栄養士さんによる意識づけが大切です。今まで知らなかった食材をまず給食で食べて、別の日に違う調理法でまた食べて、と、少しずつその食材に慣れるようにしていくと、残菜減少につながります。」と足立区「おいしい給食担当」ご担当者。



▲魚介とトマトソースで作った「スパゲッティ・ベスコートレ」、サラダ、そして「おかしなめだまやき」。大きな目玉焼きのように見えますが、黄桃とカルピス入り寒天でできたデザートです。

ます。

小松菜給食では、足立区特産の小松菜をJ A東京スマイルから無償で提供いただき、栄養士の明日先生が、小松菜の実物や農家の方の写真を児童に紹介するそうです。生産者の顔が見える取り組みは、児童が感謝して味わうことにつながります。

また、毎年秋には、区内一斉の「魚沼産コシヒカリ給食」が行われます。児童は、全校朝会で、区内の中学生



▲食後の歯磨きタイム。水道の前に縦に列を作って並びます。写真は、早めに並びに来た児童たち。

が新潟県魚沼市の農家の方々の協力を得て田植えや稲刈り等をして育てたコシヒカリである話を聞き、米どころのおいしいお米を味わいます。

### 豊かに学び育つ環境作り

区の教育委員会「おいしい給食担当課長」の望月さんは、「今まで知らなかった野菜などをまず給食で食べて、おいしかったら、児童はご家族にその話をします。おいしい給食は、家庭での話題作りにも役立つのです」とおっしゃいます。人気の献立は、児童のご家族から作り方の問い合わせが多く、給食レシピ集をプリントして配布したところ評判を呼び、出版社から単行本化されて7万部を超えるベストセラーになりました。

「児童に、食べることを通して学び、楽しんで欲しい」とおっしゃる校長先生。「食」を通してさまざまな出会いと知識を得、地域と学校が連携し、関わる一人一人が豊かに学び育つ場を広げてゆく取り組みは、これからも続きます。

## 埼玉

### 「能力開発学校」 ネオ彦郷

三郷市立彦郷小学校校長  
中西 健二

彦郷小学校は平成22年に読書活動優秀実践校として文部科学大臣表彰を受賞しました。全校児童毎月平均7冊以上読破しています！

【能力開発学校】「子どもが本来もっている力を十二分に発揮させたい!」、「夢を叶える可能性を限りなく広げたい!」という思いを実現すべく、能力開発学校を立ち上げ2年目となりました。今年度の全国学力テストでは、国語Bが全国比+13.5ポイント、算数Bは+9.5ポイント、新体力テストは全児童の総合評価A+B+Cが97%。成果が少しずつ現れてきているのを実感しています。

【脳を鍛える5つの黄金ルール】本校では、東海大学小澤治夫教授、(株)感性リサーチ黒川伊保子先生の理論のもとに、脳を鍛える5つの黄金ルール「早寝・早起き・朝ご飯・読書・適度な運動」を設定し、全教育活動の基盤としています。本校オリジナルの生活習慣チェックシート「ぐんぐんカード」を活用し、毎日の生活から自己を見つめ、明日の自分を改善できるようにしています。また、健康な生活を送っている家庭には感謝状を贈呈しています。

#### 【彦郷型（課題解決型）授業】

教師の授業力の開発、子どもたちの学力向上のために秋田県で実践されている課題解決型授業を本校の実態に合わせ、彦郷型授業として実践。毎年重点を定め、今年度は、「振り返り」と「書く活動」を重視、算数科と道徳で全員、授業研究を行いました。心力・学力・体力・読書力の4本柱で本校の教育プランが成り立っており、それぞれ具体的な数値目標を設定、全職員でその実現に向け努力しています。平成27年度は能力開発学校のサブタイトルとして、アクティブスクールを掲げ取り組んで参ります。



## 群馬

### 学びあいによる授業改革

前橋市立桃木小学校校長  
岡野 健

桃木小学校では、これまでも「確かな学力の向上」を目指してさまざまな授業改善の取り組みを行ってきました。しかし一斉指導型授業になることが多く、教師の指導性ばかりが目立ち、児童の自発的な学習活動を生み出せないジレンマを抱えていました。そこで思い切った「授業改革」を行う必要性に迫られ、平成26年度から「協働的な学び」の考え方に基づく「学び合い」の授業づくりに取り組み始めたのです。とは言え、これまでの授業に関する意識を大幅に変えるのは容易なことではありません。

例えば教室形態も、これまでは講義形式で授業を行っていましたが、子どもたちの発言が教師にばかり向いてしまい、児童相互のつながり合う関係が作れないという反省から、「コの字型」または「πの字型」に変えることになりました。しかし、慣れ親しんだ形態を変えることへの不安が多く、実施までに相当の時間がかかりました。各教師が長年積み重ねてきた授業スタイルを捨て、新たな方法に挑戦することは難しいものだと痛感しています。しかし、本校の教職員は、研修主任を中心にコミュニケーションを取りつつ、授業を見合いながら「課題を子どもに預ける」「教師の役割は<つなぎ>と<もどし>」「子ども同士のつながりが大事」を合い言葉に、日々実践を重ねています。

平成27年度は、この取り組みもいよいよ2年目を迎えました。今年度は「協働的な学び」に関する理論と実践について、なお一層の理解を深め、授業を見合いながら、その授業での児童の学び合う姿に焦点を当てて、「子ども同士が主体的に学び合う」学びを創造するための授業改革をさらに推進していきたいと考えています。



## 愛媛

### 学校を変える特別活動の実践 ～主人公教育の推進を通して～

松山市立桑原中学校校長  
武田 峰紀

桑原中学校は、学校の教育目標「自ら考え、自ら判断し、仲間と学び合って行動する桑中生の育成」のもと、目指す学校像を「一人ひとりが『主人公』になれる学校」とし、生徒を主語にした『主人公教育』を推進している。特別活動を「学校を変える教育活動」と位置付け、実践を積み上げてきた。本稿では、全国中学校特別活動研究会当日、昼のアトラクションで聴いていただいた「第九」の取り組みの一部を紹介したい。

「生徒に『おもしろい』と思わせたい」。

これは、本校の音楽主任である小山理栄子教諭の強い想いであった。最初、生徒たちはかなり抵抗を示していた。「こんなのできるわけないし…」である。だから、最初に話したのは、「『第九』に取り組むとき、この言葉だけは口にすな。『無理』という言葉だ。」ということだった。「無理かもしれないと思うことに、今、私たちは挑戦しようとしている。だからこそこの挑戦には価値がある。」とも言った。

習ったことのないドイツ語で歌うのは大変なことである。給食の時間には、毎日パート別の音源を全学級に流した。毎日生徒たちが第九の歌詞を耳にするように留意した。「学年音楽の時間」もかなり多くとった。ドイツ語の歌詞を短時間で覚える生徒たちの努力には、驚ろかされるばかりであった。歌えるようになると生徒たちは「おもしろい」と感じるようになり、ますます練習に力が入った。

「全国中学校特別活動研究大会」という最高の舞台で「最高の成功体験」ができたことは、生徒たちの生涯の財産になることだろう。

頑張ることはおもしろい！



## 神奈川

### 「議会を学ぶDVD教材」

議会ってなんだろう？  
～わたしたちのくらしと横浜市会～

#### 横浜市会議会局

横浜市会議会局では、小学校の児童が横浜市会について学び・知ることでより身近に感じ、政治や議会に興味・関心を持ってもらうため、「議会を学ぶDVD教材」（以下、「議会教材」）を作成しました。

平成24年8月の「横浜市会基本条例の制定に関する調査特別委員会」において検討された「市立学校を対象とした議会教材を作成し、教育委員会等と授業などへの活用を調整するなど議会情報を発信し、議会の理解を深める取り組みを実施する。」という内容を受けて、平成24年9月から作業に取りかかりました。

まず、教員の皆さんが活用しやすい教材を作成するため、教育委員会事務局、小学校長会、現場の教員で構成する小学校社会科研究会などと緊密に連携をとり、対象や収録内容について調整を行いました。その結果、対象は小学校6年生とし、映像本編の第1部では「横浜版学習指導要領指導資料」をふまえ、身近にある「地域ケアプラザ」を題材に用いて、地域の施設ができるまでの仕組みを学ぶことで、市会や議員の役割について理解を深めることができる内容としました。さらに、映像本編にチャプターを入れることや、本編で使用した図などを収めた資料編も作成することにより、授業で活用しやすいように工夫しました。

その後、議員からの御意見を取り入れた修正を行い、最終的に内容などについての了承を得ました。翌25年11月には、小学校と特別支援学校の全てに議会教材を配付し、平成26年2月に行ったアンケートによると、回答をいただいた学校のうち76%で議会教材を活用していただきました。また、小学生本会議傍聴の25年度実績は、過去最高の8校、768人となりました。

横浜市会ホームページで「議会を学ぶDVD教材」をご覧ください。（「横浜市会 DVD」で検索してください。）

URL : <http://www.city.yokohama.lg.jp/shikai/shikumi/kyouzai.html>



全体で約25分、3部構成のDVD

映像中の図やナレーション原稿などをまとめたCD



# 地球となかよしゼミナール

東北大震災復興に向けて

## 東日本大震災後の吹奏楽活動について 「みやぎスーパーバンド」の存在

宮城県吹奏楽連盟 三塚尚可

### 東日本大震災

東日本大震災から4年が経過しました。全国の皆様や海外の方からも、被災した宮城、福島、岩手県に対してさまざまな形で大変大きな応援をいただきました。死者、行方不明者21,672人、未だ避難生活を強いられている方も数十万人という状況が続いております。一日も早く復興することを願っております。

吹奏楽活動に関しても、全日本吹奏楽連盟の「響け！復興のハーモニ」のロゴのもとに義援金、楽器の提供、心温まる応援メッセージなど多くの応援を賜りました。深く感謝し御礼申し上げます。



### 吹奏楽活動の再開

宮城県内の被害状況が把握できるようになり、吹奏楽活動再開のための方策を考え、実行することが求められました。前述のとおり、幸いにも提供された義援金や楽器を活用できたので、被害地区ごとに数回に分けて楽器や活動資金の配布・応援活動をしながら、吹奏楽活動の再開を願っていました。しかし、コンクール会場やその他の演奏活動も、音楽ホールが壊滅状態でしたので、内陸の比較的被害の少なかった会場や高等学校の礼拝堂などをお借りしたりしながら何とか継続できました。

### 「みやぎスーパーバンド」について

教員採用の際に吹奏楽楽器の専門の先生が要望されるようになり、音楽教師だけでなく、その他の教科を担当されていて、かつ吹奏楽の楽器を演奏できる教師が多くなりました。



教師として、また顧問として、日々熱心に指導に当たる中で、反対に指導される生徒の立場にもなって研鑽を積んでいきたいという願いから、宮城県内の指導者有志が集って1994年に「みやぎスーパーバンド」が結成されました。



来21年にわたり研修を目的として演奏会を行っています。これまでに指導していただいた先生方は、林紀人氏、A・リード氏、真島俊夫氏、加藤浩幸氏、佐川聖二氏、保科洋氏、山下一史氏、小塚類氏という素晴らしい方々です。

宮城県吹奏楽連盟の中では「みやぎスーパーバンド」の存在が大変大きいのです。震災後の活動の協力体制をつくる上で核となり、また、今後の連盟主催行事を円滑に行う上でも、大切にしたいかなくてはならない存在だと思います。

コラム

PISAやTALIS 調査から見える  
日本の教育の現状と課題 (全5回)

## PISAの好結果の背景 (第1回)



目白学園 理事長  
尾崎 春樹



OECDが3年ごとに実施し、世界各国・地域が参加するPISAテスト2012年の結果が公表された。これは15歳(高1生)が知識・技能を実生活の課題にどれだけ活用できるかを測るもので、読解力、数学的リテラシー、科学的リテラシーを主要3分野とする。

日本は、2000年から参加し、2003年、2006年のテストで3分野ともに成績が落ち、「PISAショック」と呼ばれる騒ぎになった。しかし今回、日本の平均得点は前回調査(2009年)に続いて急回復し、3分野全てで過去最高となった。

加えて、習熟度レベル別でも下位層が減り上位層が伸びるという好ましい結果が出た。

この好成绩の背景を過去の教育政策との関連で見ると、主な点が3つほどあると思われる。

### 1. 総合的な学習の時間(以下「総合」という)の実践

まず、「総合」が教育現場で定着し充実してきたことがあげられる。「総合」では、「自分で課題を立てて、情報を集めて整理して、調べたことを発表する」という「探究のプロセス」が大きな柱となるが、これはPISAが読解力などで測定しようとする活用力と同様の考え方である。2000年に「総合」が導入された当初は、それまでの準備期間も短く、学校への支援も不十分で、教師も対応に苦慮していた。PISA2012で好成绩を取めた高1生は、「総合」導入から5年経ち、現場の実践がようやく軌道に乗り始めた頃から「総合」に親しんできた世代である。

ところで、日本の全国学力学習状況調査で「探究のプロセス」に学校で取り組んでいるかを子どもたちに尋ねたところ、全国トップの成績の秋田県での肯定的

な回答の割合は全国平均より小6で20ポイント、中3で30ポイントも高かった。また学力調査の無回答率でも平均正答率でも、秋田県は全国平均に明らかな差をつけている。「総合」の習熟とPISAの好成绩には有意の相関があると考えられるゆえんである。

### 2. 補充学習・発展学習

次に、2003年から学習指導要領が一部改定され、個に応じた指導の充実のため「補充学習・発展的学習」の実践を促す方向に舵がきられたのも大きい。

### 3. 全国学力・学習状況調査の導入

最後は、2007年から導入された全国学力・学習状況調査である。これについても、基礎・基本を問うA問題に限らず、活用力を問うB問題の導入が、学校現場での探究プロセス重視に大きな影響を与えたことは間違いない。これについては、OECD自身が「実社会の文脈における知識の活用力に焦点をあてた全国学力テスト」の導入が、日本の子どもたちの問題解決スキルの向上に役立った、と分析している。

「補充学習」や「発展的学習」の導入は、いわゆる学力低下論争の過程で促されたものだが、「総合」はいわゆる「ゆとり教育政策」の柱の一つであったことを思うと、PISAの好成绩の回復を「脱ゆとり教育の成果」などと単純に片づけるべきものではなからう。「生きる力の確かな育成のためには瑣末な知識の記憶に時間を取られず、自ら考え表現する時間を作っていくべきだ」という教育政策が、ようやく実践レベルでバランスよく実ってきたと考えるのが適当ではないか。

イラスト ひらた ゆうこ <http://rakugakiya-yh.com/>

第13回

## 地球となかよしメッセージ

「地球となかよし」という言葉から感じたり、考えたりしたことを、  
写真(またはイラスト)にメッセージをつけて表現してください。

◎主催/教育出版 ◎協賛/日本環境教育学会 ◎後援/環境省、日本環境協会、全国小中学校環境教育研究会、毎日新聞社、毎日小学生新聞

教育出版

「地球となかよしメッセージ」  
事務局

TEL 03-3238-6864 <http://www.kyoiku-shuppan.co.jp>

作品募集

(2015年7月1日  
~9月30日)



\*第12回(2014年度)作品のお問い合わせについても、  
「地球となかよしメッセージ」事務局へ。

株式会社オーエックスエンジニアリング  
営業部主任

## スポーツ用車椅子の開発

デザイン学校を卒業後、この会社の製品開発部門に入社しました。ある時、退職したテニス担当者の後を僕が引き継ぎ、のちに国枝慎吾選手（プロ車椅子テニス選手）も担当するようになりしました。現在は全国の主要テニス大会でのメンテナンスや車椅子の採寸（受注）業務に加え、各競技選手とのサポート契約も取りまっております。

## お客様と信用しあひこと

車椅子の採寸では腹筋や背筋が使えない方もいらっしゃるので、まず採寸用の車椅子を使い、「椅子」としてお客様が座れるように細かく調整します。足を置くフットボードなどは、使う方の残存能力と競技に合わせて調整し、形状や位置により生じる性能についてご説明し、ご理解いただいた上で進めていきます。図面が確定してから、完成まで約6週間かかります。製作については、まずお客様の要望を製造部門に伝えます。競技用車椅子の製作には、専門的な知識も必要ですが、一番大切なのは、お客様とコミュニケーションを取り、お客様とお互いに信頼しあうこと。自分の身体については、ご本人が一番わかっています。時間をかけてお客様と一緒に考え、最善を尽くしますが、お使いになるご本人も、完成品が自分に合っているかを判断するのは難しいんです。身体を車椅子に合わ

## 安大輔さん

せる部分もあれば、車椅子を身体に合わせる部分もある。バランスをとりながら、徐々に核心部分を絞り込んでいく、という作業です。

最初の1台目で、完成させるのは難しいですね。たとえば国枝選手が今使っている車椅子は6台目ですが、今だに「もうちょっと何かできるんじゃないか」と言っています。それは、彼の筋力やテニスに対する姿勢、できることが向上したということです。彼の向上に合わせて車椅子も向上させる。そしてまた彼が成長すると「車椅子も新しく」と、ずっと追いかけていく感じです。先日、「海外の長身のプレーヤーに対応するために座面を数センチ上げたい」と国枝選手に言われました。調整を繰り返して、最終的に上げられたのは数ミリです。でも大切なのは、現状を変えることができたという事実です。それが自信につながりますし、実際に、物理的にも精神的にもよくなっているなと思



ます。車椅子を作った担当者は、ずっと選手を見守っている感じで、「次はどういうふうに進化していくんだろう」とそばで見せてもらうのは本当に楽しいです。「道具のせいで負けてしまったらどうしよう」というプレッシャーもありますけれどね。テニス車の採寸は特殊で、採寸できる社員は数名です。注文書も工夫し、お客様が理解しやすくミスが出づらい書式を作っています。また、麻痺により感覚がない方が長時間椅子に座ると褥瘡じよくそうになることもあるため、調整やクッション選定もします。技術的・予算的に難しい場合もありますが、小さいメーカーだからこそできるサービスというのがあると思います。

## 臆病にならずに

常に心がけているのは「もっと、お客様のそばに」。お客様の障害の特徴や筋力などを踏まえて、ご要望に耳を傾け、車椅子を製作すると、一つとして同じ車椅子にはなりません。一方で車椅子テニスは、健常者もある程度同じワールドで戦えるので、趣味としてやっている人もいて、そこから開発用にフィードバックされる意見もあるんです。

2014年は、年齢も体重も制限し、3歳から15歳くらいまでのお子さんにターゲットを絞った商品を出しました。成人の車椅子テニス大会で「車椅子ジュニア部門も作って体験させたいので、子ども用車椅子を貸してください」といったお問い合わせを時々いただく、嬉しいですね。臆病にならずに、どんどん外に出てもらいたいです。

やす・だいすけ 埼玉県鳩ヶ谷市（現川口市）生まれ。  
2000年にオーエックスエンジニアリング入社。  
<http://www.oxgroup.co.jp/>

## Educo Salon

前号について寄せられたご感想です。

◆関西大学 田尻教授のインタビューは、一言一言に説得力があり、新鮮だった。私も、「教師にできることは誠意の積み重ねしかない」という言葉を重く受け止めて進んでいきたい。（北海道 飛鷹保広）◆秋田と福井の学力が高いのは、教師集団のまとまった授業への取り組み方にあると思います。教育実践の質を高めるための観点（視点）が提示されていて、参考になりました。（北海道 瀬波金直）◆「付けた力」を明確にし、「学び合い、伝え合い」で生徒を伸ばす。図「話し方」「聞き方」「かわり方」のポイント（国語科）の深まり、広がり良く分かる関係で非常によい。（青森県 工藤 修）

## なかよし宣言

わたしたちをとりまく自然や社会は、科学技術の進展や国際化、情報化、高齢化などによって、今、大きく変わろうとしています。このような社会の変化の中で、人間や地球上のあらゆる命がのびのびと生きていくためには、人や自然を大切にしながら、共に生きていこうとする優しく大きな心をもつことが求められています。わたしたちは、この理念を「地球となかよし」というコンセプトワードに込め、社会のさまざまな場面で人間の成長に貢献していきます。